

岡山聖化交友会々長に聞く

大いなる供託物の分かち合い

関西聖書神学校長・
日本イエス・キリスト教団香登教会牧師

工藤弘雄



ジョン・ウエスレーは、全き聖化の恵みを神から与えられた「大いなる供託物」と言いました。そして、それはメソジスト教徒と呼ばれるクリスチャンだけが占有すべきものではなく、全てのクリスチャンが共有すべき神の賜物であると言ったのです。

ウエスレーの時代まで、救いの恵みの強調点は、宗教改革者たちが強調した信仰のみによるキリストの義の転嫁（インピーティション）の恩寵でした。それは、中世期の真摯なクリスチャンたちの霊性の強調点であった人間のわざによる聖化への反動と言えるかも知れません。

しかし、ただ信仰のみ、恩寵のみによって「罪あるまま義と認められる」という宗教改革者たちの強調は、「キリスト教の失われた主調」である「ホーリネスに対する郷愁」を再び呼び起こす結果となった。

そして、ウエスレーの時代になり、救いの恵みの強調点はキリストの義

の転嫁のみならず、キリストの義と聖の分与（インパーティション）の恩寵に移行したのです。キリストの義と聖の衣をただ恩寵によって着せられるのみならず、その義と聖の衣を転嫁していただいた者にふさわしく、内側にもキリストの義と聖が分与される、ここに神の像の回復があり、新創造の恵みがあるというのです。これこそ「全き救い—大いなる供託物」だったのでした。

フレッチャーは、ウエスレーの言うところの全き聖化を聖霊のバプテスマと同一視しました。星群のように輝く種々の約束の中で「父の約束」と言えば、「聖霊のバプテスマ」とあるということです。そして父なる神を信じ、御子なる神を信じ新生した者が、あの弟子たちのようにこの聖霊のバプテスマにあずかることもできると言い切りました。

バプテスマと同様に、聖霊のバプテスマを新生の後に与えられる恵みとして語りました。そしてこの恵

みを受けるためには、ほかのいっさいのものを失ってもよいと思うほどに、待つことだ。「従え、求めよ、待て—但し長くはない」と励ました。

岡山の地は、早くからこの恩恵を強調する地でした。明治時代から香登修養会が起これ、人々は想像を絶する渴きをもってこの恵みを求め、火に燃やされ各地に散っていったのです。戦後再び、香登修養会は復活、今日に至っています。また、同じ霊調の中で再臨待望同志会が起これ、聖会、大会が繰り広げられています。そして今から三年前、それまで継続的に開かれていた岡山聖化大会が基盤となり、岡山聖化交友会が発足しました。それは、この「大いなる供託物」を中国地方や四国地方全体にまで拡大したいとの願望からでした。岡山聖化交友会がその使命を果たせますように、続いてお祈りください。

第16回聖化大会教勢・財勢報告

教 勢

月 日	集 会 名	集会人数
10月15日(月)	セミナーⅠ	236
	レセプション	53
	セミナーⅡ	231
	神学生交歓会	87
	聖 会 Ⅰ	393
10月16日(火)	女性大会	64
	Ⅰ	64
	分科会	96
	257	53
	Ⅲ	53
	Ⅳ	44
	聖 会 Ⅱ	401

財 勢

集會名	席上献金	予約献金	合 計
聖 会 Ⅰ	276,405	280,100	556,505
聖 会 Ⅱ	470,531	461,100	931,631
セミナーⅡ	191,778	595,000	786,778
女性大会	430,922	738,000	1,168,922
そ の 他		7,000	7,000
合 計	1,369,636	2,081,200	3,450,836

聖会Ⅰ「きよめられた生涯のモデル」

ロバート・コールマン博士

ヨハネの福音書17章17節〜19節
きよめられた生涯がもたらす喜びによって私たちは世界の国民への宣教に駆り立てられていく。イエスは
大祭司の祈りの中で弟子たちの聖別を願われた。聖別とは罪からきよめられ、世から分かれたることであり、また世に遣わされたイエスにない、弟子たちも世に遣わされることである。

神は創造の初めから、人が神を知り、愛するようにすることを願われたが、それは実現しなかった。それでも神の願いは変わることはなく、預言者たちはメシヤの来臨を語り続けた。全ての人に福音が伝えられ、神の国が到来する現実をサマリヤの女の記事は如実に伝えている。サマリヤの女はイエスを救い主と知ると、町に戻って人々に語った。聞いた人々は彼女の姿を見、主のもとにやってくる。メシヤと信じた。この物語にはどのような福音を届けるかというイエスの戦略が見られる。神はイエスの前にも指導者たちを送り、人々に服従を促してきた。人々は神に従うようになるが、まもなくリバイバルは消滅する。旧約聖書の歴史はその繰り返しであった。大衆運動は人々の神のかたちにつくることに成功しなかったと言えよう。

バプテスマのヨハネはイエスを世が歓迎し、その周りに大群衆が集まるだろうと期待したが、イエスは決して大運動を起こそうとはさず、救えるほどの弟子を集めることで、救いのわざを開始された。イエスは飼う者のない羊をできるだけ助けようとするが、イエスにも限界がある。たとえ神の御子であつても、何千もの人々といつともいえることはできない。だから、弟子たちに収穫の主に祈れと言われた。羊を愛し、彼らを主のもとに導く務めを帯びた人々を増やしていくならば世界に届くことができると考えておられた。これがイエスの戦略であった。群衆の大きな必要に応えながらも、一方で弟子を集めるに訓練し、ご自身のビジョンを奉仕、生活の中にもどのように生かしていくかを見せながら、自分の奉仕の中に巻き込んで行かれ、何が必要なのかを教えられた。やがて主の十字架を前にしたとき、訓練を受けた弟子たちは主を捨てて逃げる。結果、主のなされたことはみな失敗であったと見える。しかし、イエスは彼らの信仰の回復を信じて祈っておられる。この弟子たちによってこそ世が信じていることができるからである。イエスは、私を信じる者は

私より大いなるわざをする(刈り入れる)と言われた。祈り求めた弟子たちは聖霊に満たされ、福音を大胆に語った。教会は拡大し、イエスが三年かかって得られなかった多くの人々がイエスを信じた。主に従う全ての者が福音を世界に伝えていくために携わる働きとは、自分の生き様を通してビジョンを分かち合い、新たな弟子を生み出すことである。

きよめの生涯には代価(十字架)が求められることを忘れてはならない。主は罪のさばきをすべて背負われた。キリストの願いはすべてに完成されているので私たちが何かを付け加えることはないのだが、この救いを伝えようとするなら、支払うべき犠牲が伴う。私たちは神の期待から目をそらさせようとするすべてのことから死ななければならぬ。しかし、宣教に命令が果たされるならば、犠牲に命をささげることがあることも覚えておこう。黙示録に預言されているように、天が開かれ、大群衆が集まり、賛美があふれる。イエスは帰ってこられ、すべての民をお迎えになる。勝利のイエス。これが現実である。私たちは今こそ永遠を生きる。この喜びを持ってもらえるだろうか。新しい献身をお勧めしたい。

「題講演」が本になりました!

グループに分かれてきよめの現代的課題に取り組みました。非常に示唆に富んだもの
300円切手を同封のうえ、聖化交友会事務局までお申し込み下さい(4面下参照)。
にお詫びして訂正します。



第16回聖化大会（関東）報告

昨年10月15日(月)－16日(火)の2日間、JHA関東第16回聖化大会が淀橋教会で行われました。主講師ロバート・コールマン博士をお迎えし、恵みにみちた集会でした。特に初の試みであった分科会も祝され、幸いでした。別表の如く教勢、財勢を報告し、下記に聖会メッセージの概要を記します。

聖会Ⅱ「愛は聖化の鼓動」

ロバート・コールマン博士

ヨハネの福音書21章15節、22節
イエスは律法の中心は愛である
としばしば説いておられた。復活
されたイエスは「わたしを愛しま
すか。」とペテロに三度繰り返さ
れ、ご自分を愛の対象として差し
出しておられる。イエスがこのよ
うに質問したのは、十字架を前に
したペテロが三度イエスを否んだ
からである。イエスに質問された
ときに、この悲劇的失敗の記憶が
ペテロの脳裏に鮮明に思い起こさ
れたであろう。ペテロは泣いて悔
い改めたが、イエスは彼がどれだ
け悔い改めたかではなく、イエス
を純粹に愛しているかを尋ねてい
る。イエスはさらに、「これらのも
のにまさって」とも付け加えてい
る。これが弟子たちのことを指す
とするならば、たとえ他の弟子た
ちが真切だったとしてもわたしは決
して真切らないと語り、自分の力
を過信していたペテロの姿が思い
出される。またこれらのものは、
安楽な生活や良い評判をえること
などとも解釈することができると
イエスはご自分と私たちとの間に
他のものが入ることを決してお望
みにならない。三度愛しますかと
言われたのでペテロはたいへんに
心を痛めた。失敗の記憶がよみが
えったとき、「あなたがご存じて

す。」と応えるのには躊躇を覚えた
と思われるが、彼は主の理解に訴
えた。自分についてくどくど説明
する必要はない。主は私たちが何
度も躓き、主の顔に泥を塗ったこ
とをご存じてある。それでも、主
に対する愛を告白するのだ。
この告白をことばだけでなく、
かたちに現されるべきである。そ
れは主の羊を愛することである。そ
クリスチャンの愛は自己満足であ
ってはならない。罪人であって私
たちを愛してくださった神の愛を
映し出す信仰者になることである。
助けを必要とする魂にキリストの
希望を伝え、救いの中に無い、養う
のである。忍耐と労力が必要では
あるが、手塩にかけて育てるなら
ば彼らは強くなり、羊が羊を生む
ようになる。羊飼いの仕事は羊を
正しい道に導くことである。主の
弟子たち自身が目的もなく彷徨し
ていた時期に、主は彼らを呼び寄
せられた。三年間の弟子たちもす
なわった。同じことを弟子たちもす
るよう命じられた。このように
して福音が全世界の届く幻を主は
ごらんになった。私たちにそれは
それぞれの立場があり、賜物、能力によ
って働きの内容は違うが、みな必
要とされている器であり、主の羊
を飼うようにと言われるのである。

私たちの愛は服従によって試さ
れる。ペテロはかつて従ってきな
さいとのイエスのことばによって
人を獲る漁師に召されたが、イエ
スは同じ命令をペテロから去ろう
としていたこの時に言われた。「わ
たしはあなたを愛する」と叫ぶ
だけでは意味がない。主の戒めを
守り行うのが弟子である。愛は犠
牲を要求する。伝承によるとペテ
ロは最初の殉教者の一人となった。
死に方がどうであるかはともかく
として、大切なことは自分に死の
うとする決意である。「ヨハネはど
うですか。(同じ死に方をするので
すか。)」と問うペテロに主は言わ
れた。「それはあなたとは関係な
い。あなたは自分に与えられた責
任を直視すべきである。」
部分的な献身というものはない。
死に至るまで愛の献身を日々繰り
返していこう。地上における奉仕
がどのようなものであったとして
も十字架を負って主に従おう。こ
れが聖化と宣教の確信である。十
字架を見上げ、主が私たちがどの
ように愛してくださったかをしっ
かり、「わたしを愛しますか」との
主の問いかけに対して真実に応答
するときに、きよめが私たちの生
活に生きていることが明らかにな
る。

昨年のJHA関東聖化大会での「分科会

初の試みとなった分科会では「21世紀に生きるきよめ」をメインテーマとしつつ、4
です。今回それを1つの本にして多くの方にお分ちたく願っています。ご希望の方
(尚、本書中、1頁目次中「座長井上諭」を「座長伊藤諭」に、「井上義美」を「井上

東海聖化交友会前会長無関師を偲ぶ

無関正秀先生（活けるキリスト一麦・守山教会牧師）を突然天にお送りしたのは、昨年の秋の聖化大会直前のことでした。先生は、フリーメソジスト日本橋教会で受



故無関先生

救・受洗され、その後、一麦の群に導かれ、また献身されて伝道者としての生涯を全うされました。

先生を想いますときに心に浮かぶことども、のいくつかを記して先生を追憶するとともに、先生を教い、召し、忠実に用いられた主の聖名を崇めたいと思います。

■第一に、先生は謙虚な器であられました。したがって当然のことながら、会長就任への役員一同の切なる要請を徹底し固辞され、自分は背後でどんな奉仕・仕事でもするからと言われ、自分は取るに足りない器だと、心底思っておられました。最後に、引き受けてくださいました。その後、引き受けて仕える姿勢を徹してとり続けられました。■真実な方でした。正直に申し上げて、先生は、無口で、不器用で、およそ人を感心させるような手際で事を処する姿とは無縁でした。しかし先生の言動からは、いつも忠実という香りが、豊かにたがよって、周囲の者たちに、安らぎと感化を与えるのでした。■神の仕事に携わることを、最高の榮譽と確信しておられた器です。あのように固辞された会長になつていただき、申し訳ないと思ひもしていたのですが、「こんな卑しい者にこんな大切な職責をくださるとは」と、心から

光栄に思っておられたと、後日、奥様にお聞きして、本当に感謝したことでした。

■堅く聖書信仰に立つておられました。みことばを聞き、みことばに聴く際の、実に真剣で敬虔であられた姿が、心に留まっています。■単純・素朴な、そして篤い信仰の持ち主でした。祈りのことばの真剣な響き、神慮に対する大胆な信仰などに、端的にそれが、現わされていたように思えます。

■しかし、何よりも先生は、きよめに渴き、深みを求め、きよめに生きる器でした。思えば絶筆となった、ご召天一カ月前発行の本誌の一面は、明確に聖霊との生きた豊かな関わりで生きることの大切さ、すばらしさの強調でした。また倒れる予兆さえなかった最終の主日となった講壇からも、自分の地上の生涯が、いつ閉じられても、悔いが無い、御前に立つことができるといふ趣旨のことを語られたとも伺いました。

この追憶の拙文を綴る直前に、東海聖化交友会発足の端緒となった第一回聖化大会で、尊いご奉仕をされた、信仰の盟友松木先生のご召天の報に接しました。同年齢でもありましたので、いっそう深い感慨があります。

万事深い主のご摂理にあることとは言い、人間的な言い方が許されるなら、無関師、松木師のご召天は早すぎると、惜しむ思いがさきります。しかし先生方は、ホーリネスに生きる美しさを遺して、天駆けられました。そのチャレンジを心に留め、ホーリネスに生き続けたいと、今日も強く祈り願っています。

（竿代信和）

●第14回札幌聖化大会

- ▼日時 5月21日(火)、22日(水)
- ▼会場 北海道クリスチャンセンター
- ▼講師 岸田 馨先生
- ▼主なプログラム
聖会3回、セミナー1回、
教職及び家族歓迎会

●第6回栃木聖化大会

- ▼日時 5月19日(日)午後3-5時
- ▼会場 基督兄弟団・宇都宮教会
- ▼説教者 杉本俊二先生
- ▼司会 山田隆先生
- ▼あかし 高岡秀雄兄
- ▼聖歌隊の奉仕もあります。

総務リポート

▼第32号をお届けします。今回前号一面(絶筆となった)の執筆者・無関師の追憶の記事を入れました。